



A 堆肥・肥料とも
表層施用区

B 堆肥表層・肥料
全層施用区

C 堆肥・肥料とも
全層施用区



B 堆肥表層・肥料全層施用区で
は表層部に細根・根毛が多く、
下層部まで広がっている



B区の根。全層にわたって細
根・根毛が土をつかんでいる



C区の根。白い根が目立つが
細根・根毛が少ない

なくリン酸や石灰などをバランスよく吸収するので、糖度・ビタミンCなどの品質の向上にもつながります。

●深い根づくりと、細根・根毛づくり

このように、堆肥の根づくり効果には、根を広く深く伸ばして干ばつなどにも負けない体をつくる生育・収量安定効果と、細根・根毛をふやして野菜の健康や味を高める品質向上効果があります。堆肥の表面・表層施用は、根が初めにのびる表層の通気性・保水性を集中的に改善して、元気な根群をつくる効果があるといえます。

ただし、10頁のような重くて通気性の悪い灰色低地土で、堆肥施用による改善がすすんでいない場合には、まずは全層に施用して土をやわらかくしていくことが収量の安定につながります。また、堆肥はいったん乾くと吸水しにくいので、火山灰土壌など乾きやすい土に表面施用する場合、堆肥と表土の乾燥対策が大切です（次頁参照）。

堆肥の全層施用と表面施用で、ハクサイの収量・品質を比べると

	収量（球重） （kg）	品質		
		ブリックス糖度	ビタミンC（mg/l）	硝酸イオン濃度（mg/l）
全面全層施用（慣行）	2.62 (100)	3.4 (100)	117 (100)	1,550 (100)
表面施用	2.72 (104)	3.6 (106)	129 (110)	1,460 (94)